

BMC プログラム・海外派遣報告書
化学専攻 精密制御化学分野 博士前期課程2年 宇野 真之介

「遺伝暗号拡張によるケージドタンパク質の調製に関する研究」

派遣先: The Salk Institute for Biological Studies. (Lei Wang Lab).

派遣期間: 2008年8月20日～2008年9月18日

BMCインテグレート大学院理学教育プログラムの御支援の元、私はアメリカ合衆国カリフォルニア州ソーク研究所にあるLei Wang 教授の研究室に1ヶ月間滞在し、拡張遺伝コードによる非天然アミノ酸のたんぱく質導入に関する研究を行いました。ソーク研究所はサンディエゴのラホヤ地区に位置し、すぐ隣には2008年度ノーベル化学賞を受賞したRoger Y. Tsien教授が所属するUCSD(訪問しておけばよかったと後で後悔)やスクリップス研究所があります。またラホヤ地区は近くに美しい海岸のあるリゾート地としても有名で、私がいた1ヶ月間も毎日快晴で温暖であり過ごしやすい気候でした。

研究室では教授を含めて非常にフラットな人間関係があり、いたるところで頻繁にディスカッションが起こっているのが印象的でした。研究室では右も左もわからない状況で実験が始まったので不得意な英語とジェスチャーを使って周りの人たちに必要なことを聞いて回ったり、直接指導して頂いた Zheng Xiang 博士とディスカッションしたりしました。またミーティングに参加したり学生と話しながら昼食を食べたりバスケットボールをしたりして交流を深めることができ、普段有名な雑誌で名前を見るような研究室の学生が実験している姿、勉強している姿、遊んでいる姿を実際に見ながら一緒に過ごしたことは非常に良い刺激を受けることができました。

最後になりましたが、経済的なご支援をくださったBMCプログラムの皆様を初めとして、このような貴重な経験を与えてくださった皆様に深く感謝いたします。



Lei Wang 教授 (真ん中)と Zheng Xiang 博士(左)